

目 次

序 章	1979～2008年のイギリスの資本蓄積 1
——評価と本書の構成——	
第1章	雇用削減による生産性上昇の資本蓄積 11
——脱工業化とそれがはらむ諸問題——	
1	イギリスの脱工業化 (De-industrialization) 11
2	イギリスの製造業雇用の縮小の動き (1950～2007年) 14
2.1 1950年から1980年代初期までの脱工業化 14	
2.2 1979年から2007年までの脱工業化 17	
2.3 1979年以降の労働市場の全体的な動き 20	
3	先進国比較から導かれるイギリス製造業の資本蓄積の特徴 ... 33
3.1 生産性の顕著な増大 33	
3.2 低迷を続ける産出高 35	
3.3 所得と利潤の上昇を可能にする長期失業者の大量発生と存在 38	
3.4 イギリス資本蓄積が導き出すもの 40	
4	生産性上昇の独自なメカニズムを持つ資本蓄積軌道の形成 ... 43
4.1 生産性低下の1979～81年期間 44	
4.2 雇用減少による生産性上昇の1982～87年期間 49	
4.3 産出高増大による生産性上昇の1988～90年期間 54	
4.4 雇用減少による生産性上昇の1990～92年期間とそれ以降 56	
5	個人消費主導の景気回復 57
5.1 個人の可処分所得の増大 58	
5.2 個人の貯蓄率の低下 62	
5.3 個人消費の刺激政策 63	
5.4 個人消費主導の景気回復の限界 63	
6	資本蓄積による長期的発展を妨げる諸要因 65
6.1 熟練不足による産出高の抑制 66	
6.2 生産と消費の乖離 72	
6.3 経常収支の赤字 75	

7 結びにかえて：イギリスの生産性上昇メカニズムが内包する諸問題	77
7.1 不平等の拡大	77
7.2 失業・雇用の地域間格差	78
7.3 貿易収支の赤字	81
第2章 日本の対英直接投資とイギリスの資本蓄積	89
はじめに	89
1 1980年代のFDIの全体的な動き	91
2 ヨーロッパへの日本直接投資	95
2.1 対欧FDIの特徴(1)：市場追求型	95
2.2 対欧FDIの特徴(2)：組立産業への集中	99
2.3 対欧FDIの特徴(3)：イギリスへの投資集中	100
3 イギリスの対内FDIの趨勢	103
3.1 第1段階 1950～60年代：突出したアメリカの対英直接投資	103
3.2 第2段階 1970年代～80年代半ば：低迷する対英直接投資	105
3.3 第3段階 1985～95年：増加する対英直接投資	107
4 イギリス経済に対する外国企業の影響	113
4.1 イギリス企業と外国企業の比較(1985～92年)	114
4.2 イギリス企業の特徴	117
5 日本の対英直接投資	121
5.1 イギリス製造業部門における外国企業の中の日本企業の位置	121
5.2 製造業部門の日本企業の独自性	127
6 結びにかえて：「日本化」に関する議論	136
第3章 グローバル下の労働過程とイギリス労働管理	145
1 グローバル下の労働過程論とは何か	145
2 不熟練労働から成り立つ生産過程	148
—マルクスの生産過程論—	
2.1 労働の二重性と生産過程	148
2.2 労働の二重性と資本の管理	150
2.3 賃金と労働の内容との関係(根本的対立を隠ぺいする諸現象)	152
3 熟練労働を含む労働過程論と形成される価値	154
—ブレイヴァマンの労働過程論—	
3.1 ブレイヴァマンが提起する新しい課題と解決	154

3.2 ブレイヴァマンの労働過程論の評価	157
4 経営戦略による熟練創出の労働過程論	160
—フリードマンの労働過程論—	
5 グローバリゼーションから展開された二重の労働力からなる労働過程論	163
—アトキンソンの「フレキシブルな企業」モデル—	
5.1 「フレキシブルな企業」モデルに要請される課題	163
5.2 企業理論にフレキシビリティを内包化させる必然性とその実現化	165
5.3 「フレキシブルな企業」モデルにおけるフレキシビリティ	166
5.4 「フレキシブルな企業」モデルの特徴と問題点	171
5.5 アトキンソンモデルに対する批判：その難点や不十分な点	173
6 グローバリゼーション下の労働の二重化とフレキシビリティ	176
6.1 「マンパワー戦略」によるフレキシビリティの多様化	176
6.2 企業の内部・外部で進展する機能的・数量的フレキシビリティ	178
7 グローバリゼーション下の労働の新しい問題と求められる企業組織	183
7.1 労働組合パワーの弱体化とそれに伴う賃金交渉を巡る制度変更	186
7.2 賃金の決定方法の変化と新しい支払い形式	192
7.3 熟練労働者への賃金—可変的な(variable)賃金制度	194
8 結びにかえて	200
終 章 リーマンショック以降の資本蓄積	209
引用文献	221
あとがき	229